

連合長崎・連合長崎地協2015年新年交歓会

ストップ・ザ・格差社会！

すべての働く者の連帯で「安心社会」を切り拓こう！



連合長崎と連合長崎地協は、共催で1月6日(火)18時30分から長崎市の「ホテルニュー長崎」において「2015年新年交歓会」を開催しました。当日は国会議員、県議、市議、町議、友好団体等の来賓の皆様、構成組織役員に参加者を含め約300人が参集する盛大な新年交歓会となりました。

冒頭、森会長は、「昨年は巨大与党となった安倍政権のアベノミクスへの期待感から国民の多くが景気回復に期待を寄せた一年であったが、その成果は一部の人にしか反映されず、地場中小企業の労働者や高齢者など多くの国民は実感を感じとることができなかった。そして年末の慌ただしい時期に突然の解散総選挙となり、組合員の皆さんにおいては、積極的なご支援・ご協力をいただき、組織をフル回転して戦ったが、残念ながら3つの選挙区で敗北する結

果となった。また、50%を切る低投票率での敗北を、政党として、それを支える組織として、大きな課題が浮き彫りになった。この状況を真摯に受け止め、政治活動の意義と必要性を今一度原点に立ち返り、次の戦いに備えなければならない。連合長崎は、全ての働く者の代表として『働くことを軸とする安心社会』の実現に向け、広く県民に理解と共感を求める活動を展開していく」とし、「①『労働者保護ルールの改悪阻止』と『STOP THE 格差社会！』へ向けた行動の展開」、「②2015春季生活闘争」、「③今春の統一地方選への対応」、「④平和行動への取り組み」の4点を基軸に活動を展開していくと主催者を代表してあいさつを行いました。

森会長のあいさつの後、多くの来賓の中から代表して、高木義明民主党長崎県連代表、吉村庄二社民

党長崎県連合代表、中村法道長崎県知事、大塚崇史長崎労働局長、鄧偉中国総領事館総領事、田上富久長崎市長からあいさつを受けました。

続いてステージ上で恒例の鏡割りが行われ、川村力長退連会長の音頭で乾杯が行われました。その後、「ちんどん かわちや」の「祝い餅つき」が行われるなか、参加者はそれぞれに懇親を深め、最後に酒井隆

長崎地協議長の音頭でガンバローを三唱し、2015年新年交歓会を終了しました。

連合長崎、長崎地協は、2015年度もすべての働く者が安心して生活できる社会をめざして各種取り組みを進めてまいります。各構成組織役員・組合員皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

会長あいさつ（活動の基軸となる4点）

■「労働者保護ルールの改悪阻止」と「STOP THE 格差社会！」について

安倍政権は、労働者を保護する法律やルールを改悪しようとしている。1つには、派遣労働者の期間を撤廃し、生涯派遣社員として低賃金で雇用できる制度。2つ目には、一定年収以上の労働者に対して闘争時間ルールの対象外とした「ホワイトカラーイグゼンプション」の残業代ゼロ政策。3つ目には、不当解雇を訴えて裁判で「解雇が無効」との判決があっても、お金さえ払えば労働者をクビにできる制度。4つ目には、安価な外国人労働者の拡大などを目論んでいる。特に1点目の派遣労働者の期間撤廃については、国会での二度の廃案にも関わらず、次期国会にも提出する構えである。数の暴挙により法案が成立するならば、格差の更なる拡大につながる。正規雇用が減少をし、非正規雇用は拡大をし続ける。日本の将来を背負う子や孫たち、そして厳しい時代を乗り越え、今日の礎を築いていただいた高齢者世代のためにも、私たちは安心して生活をつくっていかねばならない。本年も引き続き連合本部と連携をはかりながら、そして連合長崎独自としても行動を展開していきたいと思う。

■「2015春季生活闘争」について

依然として低賃金に苦しむ労働者に追い打ちをかけるように、昨年4月に消費税が増税された。さらに2017年4月には10%に再増税される見通しである。また、国民は円安の影響で輸入品を中心に生活必需品の高騰に歯止めがかからず、日々の生活に困窮している。昨年、政府は経団連を通じて経営側に賃上げを要請した。しかしながら、両者の思惑は一時金や定期昇給を含めた賃金の増額である。私たちは、生活の基盤となる月例賃金

の増額を求め、所得向上へ向けた闘いを展開していかねばならない。期待感や雰囲気だけでは事が運ぶものではない。地場中小を含めた粘り強い交渉で下がり続けている実質賃金の底上げが必要となる。それぞれの組織に対し、早期の戦術展開と要求設定をお願いする。暮らしの底上げに向けて労働者から期待と信頼される連合長崎を再構築していかねばならない。そのことが結果として組織拡大にもつながっていくと思う。

■「統一地方選挙」について

早いもので今年4月には統一地方選挙が施行される。私たちの生活に直接影響する大切な選挙である。連合長崎は現時点で県議候補13名、市議候補23名、町議候補5名の推薦を決定している。年末の解散総選挙の反省を活かし、早期に体制づくりを行い、必勝に向けた行動を展開し、各自治体において労働者、生活者の声を反映してもらわねばならない。選挙の結果は、直に自分たちの生活に反映される。このことを念頭に置き、構成組織全組合員とご家族の勝利へ向けた支援活動をお願いする。

■「平和行動」について

今年は被爆70年の大きな節目を迎える。8月6日、9日の悲惨な出来事が風化しつつある現実の中で、被爆地長崎の中でいかにして次世代に継承していくかが喫緊の課題となっている。現在展開している「核兵器1000万人署名」を何としても実現し、被爆地の声として、4月のニューヨークでのNPT再検討会議の場に届けねばならない。そして、長崎の平和行動についても70年を機に行動の中身についても議論を重ね、構成組織の皆さんに理解していただける平和行動をめざしていく。



森 光一
(連合長崎会長)



高木 義明様
(民主党県連代表)



吉村 庄二様
(社民党県連代表)



中村 法道様
(長崎県知事)



大塚 崇史様
(長崎労働局長)



鄧 偉様
(中国総領事館総領事)



田上 富久様
(長崎市長)



恒例の鏡割り



乾杯
川村 力様(長退連会長)



祝い餅つき



ガンパロー三唱
酒井 隆(長崎地協議長)

「古賀会長とニューリーダーの 直接対話(KNT47)in長崎」を開催！

連合は、古賀会長が将来の労働運動を担う地域の若手組合リーダーに連合の活動や自身の労働運動への思いを直接伝え、連合運動の継承をはかることを目的に、全国47都道府県で「古賀会長とニューリーダーの直接対話(KNT47)」を展開しています。長崎においては、2015年1月10日(土)、ANAクラウンプラザ長崎グラバーヒルにおいて開催し、連合長崎青年委員会・女性委員会および構成組織の若手組合員より18名(男性12名、女性6名)のニューリーダーが参加しました。

参加したニューリーダーからは、「青年活動に対する

悩み」「若年層の政治の取り組み」「子育て支援など社会保障に関して」「平和への取り組み」など様々な意見・要望が出され、それぞれの意見に対して古賀会長より回答をいただきました。

対話の最後に、古賀会長より、若い世代の強みとして、「①チャレンジする時間がある」「②体力・エネルギーがある」「③吸収する力がある」ことをあげ、この強みを活かして活躍してほしいと、ニューリーダーへの期待を述べられました。



連合 古賀会長



参加した皆さん

「2015春季生活闘争キャラバン」が出発しました！

2015春季生活闘争が開始されることを受け、1月24日(土)に熊本市辛島公園にて連合九州ブロック連絡会の「2015春季生活闘争キャラバン出発式」が行われました。その前日には、連合九州ブロック連絡会「2015春季生活闘争推進会議」が九州ろうきん熊本駅前支店会議室で開催され、「2015春季生活闘争」などの取り組みを確認し、意見交換、情報交換を行いました。今後、キャラバンは、九州内各県をめぐり、2月20日(金)には長崎市において終結式が開催されます。

2015春季生活闘争は、2014春季生活闘争からの賃金引上げの流れを着実なものとする重要な闘いであ

り、また連合に集う組合員のみならず、未組織労働者や非正規労働者への波及に重点を置き、社会全体の賃金体系・労働条件の「底上げ・底支え」と「格差是正」をはかることで「デフレからの脱却」と「経済の好循環実現」を果たす社会的な使命を帯びた闘争となります。

そのためには、すべての構成組織において昨年を引き続き「月例賃金」の引き上げにこだわった闘いを進めるとともに、地場中小を含めた粘り強い交渉が必要です。それぞれの組織においては、早期の戦術展開と要求の設定をお願いします。

【2015春季生活闘争 当面の主な日程(連合長崎)】

日 程	内 容
2月 6日(金)	連合長崎第39回地方委員会(連合長崎2015春闘方針決定)
2月12日(木) ～14日(土)	全国一斉「なんでも労働相談ダイヤル」 ・パート・派遣・契約社員の「労働相談駆け込みダイヤル」
2月14日(土) ～15日(日)	連合長崎 2015春季生活闘争討論交流集会
2月17日(火) ～20日(金)	連合九州ブロック連絡会2015春季生活闘争キャラバン(連合長崎) ・2月17日(火) 佐世保 ⇒ 松浦 ⇒ 平戸 ⇒ 佐世保 ・2月18日(水) 佐世保 ⇒ 東彼杵 ⇒ 大村 ⇒ 諫早 ・2月19日(木) 諫早 ⇒ 島原半島 ⇒ 諫早 ・2月20日(金) 長崎
2月20日(金)	連合九州ブロック連絡会2015春季生活闘争キャラバン終結式(長崎市内)
3月 7日(土)	「2015春闘・統一地方選勝利、政策・制度要求実現！」長崎地区総決起集会



連合九州ブロック連絡会「2015春季生活闘争キャラバン出発式」(熊本市、1/24)

「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」 を実現する日出生台集会(学習会)が開催されました!

2015年1月31日(土)、連合九州ブロック連絡会・連合大分主催による『「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を実現する日出生台集会』が大分県玖珠郡玖珠町(玖珠川河川敷)で開催され約5,000人が結集、連合長崎からは森会長をはじめ150名が参加しました。

大分県の日出生台演習場では、米軍が沖縄で行っていた県道104号線越えの実弾砲撃演習を本土5ヶ所に移転した1997年以降、米軍による実弾砲撃訓練が行われています。本訓練は、「沖縄と同質・同量」の負担という約束であったにもかかわらず、砲撃回数の増加や沖縄では実施されていなかった早朝・夜間砲撃訓練が実施されるなど、実質的には「分散・拡大」されている状況であり、連合九州ブロック連絡会・連合大分は日出生台集会を1999年から開催しています。

集会では、地元実行委員会玖珠連絡会による「地元の思い」の訴えに続き、主催者を代表して連合九州ブロック高島代表幹事、また連合本部を代表して神津事務局長が挨拶を行いました。続いて講演として、沖縄国際大学の前泊博盛教授より、沖縄県での米軍訓練の実情や、日米地位協定の問題点についてお話をいただきました。

最後に、「基地を抱える地元の重圧を少しでも軽減するために『米軍基地の整理・縮小』、そして1960年に締結されて以来、一度も見直されていない『日米地位協定』の抜本見直しを実現する運動を、引き続き地域や職場において全力で展開していく」とする集会宣言を採択し、連合大分村田会長の団結ガンパローで集会を閉会しました。

